日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

松本日宗

宗教上の教祖や偉人の事蹟を粉飾したり或はその超人間性、霊格を強調荘厳したりすることは、宗教を通じての習である。しかし事蹟は粉飾して金箔を置くことは容易であろうが霊格の場合はしかく簡易にはまいらぬ。

何故なれば、それを裏附けする聖教量とそれに基いて万人を納得させるに足る教学上の理義＝比量＝が必要であつて、これがないと、親鸞が弥陀の化身であると主張して、その証拠に夢物語りをもつて来るような情ないことになる

◇

外国に於ても教祖の霊格闡明の試みは行われている。キリストの没後三百年後のニカヤ会議で、キリストの霊格を三位一体と固定し、主なるキリストの霊格を十二の面から闡明した。御参考までに列挙すると　一、天父より生れし独り子　二、父の本質より生れし子　三、神より出でし子　四、光より出たる光　五、真の神より出たる真の神　六、造られしものに非ず　七、生れし者、天父と同質の者　八、天地に於て万物を造る　九、我等を救わんために世に降り十、肉体をとりて人となり　十一、死後三日でいきを吹きかえして昇天　十二、最後の審判に来る、と以上である

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〝文類とメモ〟

が、半分以上同じようなことばかり言つている。

◇

佛教に於ては、佛に法報応の三身あり、応身に勝、劣あり報身に自受用他受用ありと言つた具合にややこしいので、霊格の闡明は信仰の対象への理念を明確にするために絶対必要となつた。伝教大師が〝佛法血脈相承譜〟で〝常寂光土第一義諦霊山浄土久遠実成多宝塔中大牟尼世尊〟と廿字を以て釈尊を闡明した。

之に模倣して檀那覚運が念佛宝号で弥陀の霊格を〝南無為実施権開権顕実開迹顕本久遠実成従本垂迹三世益物極楽世界顕密教主大慈大悲阿弥陀佛〟とやつたものだが、聖教量がオールゼロでまづは観念の遊戯であり、ナンセンスである。そのナンセンスが真宗教学の土台となつている。

◇

宗祖大士の場合、こうした霊格の闡明は御直弟は〝本化上行の御垂迹〟とのみらしく、他に天目、日弁上人が円極実義抄に於て〝本門大師〟と強調していられる位であろう。

ところが富士派の両巻血脈には本因妙教主・本門大師・本因妙行者・下種法主・久遠元初自受用身などの言葉で宗祖大士の霊格を把握せんとする試みがあり。本宗に於ては〝一佛二名従果向因九界総在上行菩薩人界示同御尊形〟を以て宗祖大士を呼び奉る先師があつた。

◇

日隆聖人がその著述中に宗祖大士の霊格を闡明せんと努められたことは至る所に見られ、それが御自分の使命であるかに自覚せられていたのではないかとさえもうかがい得る。私は御聖教拝読中この点に留意して、宗祖の霊格の明

確なる信認把握こそが法華宗の法命であり、外に向つては隆祖の本願である諸法華宗の習い損じを匡すキイポイントであり、内には尊像安置を一定する文証でもあると考えた。そして既に入手困難となつている。刊本弘経抄を御持ちでない方へ研究の御便宜のために抜萃した文類を一括して御目にかけて今年度の責を果し引きつづいて、他派のそれと比較浅深をこころみ、殊に富士門徒への隆門教学の影響を研究したいと念願している。紙魚無眼、聖教を乱截して聖意にもどることのないように自らおそれる次第である。

註　ゴチックは筆者の私題

◎宗祖大士は日本国の主・師・親なり　隆全一・一四二

三世本有として此の娑婆世界をば在世衆生脱益の辺をば釈尊之を利し。滅後の衆生をば本因妙上行に附して利益せしむるなり。之に依て太田抄 ―略― 此等の御釈、上行等は久遠より己来娑婆三界一切衆生の主師親三徳有縁の本尊なり、開目抄の初の主師親は記小久成の界如三千本因本果釈尊上行の事なり。下巻の末の結文には釈尊十界具足の菩薩界上行。上行十法界身の人界日蓮大士を主師父母なりと釈せるなり。

（類文）　隆全一・一一四

本門八品上行要附の本門本尊如説修行の主にて之れあらば日蓮大士は上行菩薩なり。――我朝日本国は本門本尊流布の国なり故に依正相順して日蓮大士を以て日本国の衆生の為には主師親三徳有縁の唱導なり

◎宗祖大士は久遠常住の日本国の日蓮　隆全一・一四四

本興寺流口伝に本門顕本に於て正宗顕本と本涅槃妙滅後流通上行弘経の顕本之れ有り。本門八品上行要附の辺は本涅槃妙流通の意なり。故に正宗顕本は現脱を以て本因妙下種に還えす也。本門八品上行附属の辺は久遠の本涅槃妙滅

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〈文類とメモ〉

後末法本時の娑婆日本国日蓮弘法の本尊を顕本して而も其の久遠の日本国即今の本涅槃妙滅後末法日本国の日蓮なりと顕本して今昔時は異りといえども久遠本涅槃妙滅後末法日本国の日蓮と今日顕本己後の本涅槃妙滅後末法日本国の日蓮と一体なり。―略― 今日の涅槃即本涅槃妙を顕せば滅後末法日本国即久遠本涅槃妙滅後日本国なりと顕本すれば、今の日蓮即久遠の日蓮なり。今始めたる日蓮大士と思うは不信謗法の妄見なり。之を秘すべし。

◎宗祖大士は日本国王臣百官の天下祈禱の会帰主　隆全一・一五〇

陰生土因果国釈尊上行娑婆日本国総在の南無妙法蓮華経本門の本尊を日蓮大士自解佛乗して佛滅後本門流通の日本国に之を弘む。豈日蓮大士は日本国衆生の為には主師父母に非ずや故に知りぬ。日本国王臣百官等日蓮大士に会帰して天下の祈禱を致すべきなり。

◎宗祖大士は釈尊の本師にておわします　隆全九・三〇六

釈尊の「本時自行唯与円合」の本因妙下種の一念信解の信行観心の時と国とは如何。答所住の国土とは観心本尊抄に本時ノ娑婆世界ハ常住ノ浄土也と釈し給える。本国土妙は三国殊に日本国なり。云々。その時とは総じては正像末、別しては末法なり。その故は、其時とは本因妙名字凡位の釈尊の己前に前佛の出世あり。その前佛に又、本の十妙の如く自行の因果・化他の能所之れ有り。自行円満の後の化他の能所の時本涅槃妙を唱え玉う。その滅後の本利益妙の末法の時釈尊我等が如き名字の凡人にして本因妙の位に居し口に南無妙法蓮華経と唱え玉うなり。

爾れば其時、釈尊に南無妙法蓮華経と授け奉りし本師如何。

答。三世常恒に滅後は諸方共に上行周遍して佛種を下す故にその時も上行也、重ねて問て云く。その時の尊形は直の上行か　答。爾るべからず。

上行に九界を具す九界総持の人界にて名字信者の尊形なり。猶重て問て云く。其の時の「或従智識或従経巻」の智識の名字如何

答。当流最極の秘事なり。謂く日蓮大士と名け奉るなり。口外すべからず。是れ三世益物本来常恒の儀式なり。此を摺形木の顕本と名くるなり。

◎宗祖大士は本因妙下種の教主　〃右につづく〃

疑て云く。今云う処の本因妙下種の教主は三身の中には何れぞや。

答 ―略― 真実下種の教主と云は、本因本果を具し、而も因果不二の本因妙に居住する無縁の大悲金剛長寿の真実の極佛を下種の教主となす所謂る寿量の正在報身これ也。此の佛は大悲甚重なる故に尽生界の大願ありて此の娑婆世界を取りて本国土妙の本宅となし。殊に佛の在世よりも別儀に滅後尽生界の願を以て本懐となす。故に過去已前の遠々。及び今日も本涅槃妙を唱え。佛身の本因妙の方を上行菩薩を示現して滅後の唱導と為す。 ―中略― 此の報佛は三世に本果妙をも本因妙と照了して別時意趣を以て因果不二の本因妙に住し。三世常住に滅後悪人の下種を成ぜしむる也。仍て此の報佛滅後下種利生の為に本涅槃を唱うる辺は応身に似たり。然るに分証報身の上行を以て弟子とする故に報身也。但し、滅後悪人大慈大悲の辺を応身と云也。開目抄上巻に応身報身の顕本と釈し玉うは此の意也故に当流には一切衆生最初下種の時は因果不二の本因妙上行の尊形にて而も上行体具の九界総持の人界の尊形にて佛種を下すと習うなり。

◎宗祖大士は本門の世尊・悪人の慈父・本佛にて在します　隆全三・一二

本門の世尊は一切衆生の最初下種を以て本意となす。三徳有縁の釈迦世尊。此の娑婆世界の衆生の為に五百の大願

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

を起し、唯一人して度生の願を起し、衆生尽きざれば久遠長寿にして五百墨点を送る。大慈悲の世尊娑婆悪人の父なり。殊に滅後無佛世の悪人を正機と為す間、本因妙十界円備の上行と変じて滅後に出で、悪人の慈父と為り本佛と為る　云々

◎宗祖大士は本因妙の釈尊上行の化身にて在します　隆全三ノ四三

名字信行の自証護念は教弥実位迹下の護念にして、余りに大慈大悲深重なる故に本因妙自証信心の妙法蓮華経を一切衆生に施し、殊に滅後無佛世の逆謗の悪人愚人に之を授けんと欲する護念の大悲は深重なり。―略― 一切衆生の熟脱をば本果の釈尊之を護念し、滅後正像末の利生末法下種をば本因妙の釈尊、身を上行と化し日蓮と変じて之を護念し之を助く。

◎宗祖大士の御一身は釈尊上行　隆全三・二六七

本果釈尊・本因妙九界具徳上行体具の人界日蓮大士の弟子檀那の悪人逆即是順善悪不二の秘妙方便これあり。謂く方便の実体とは万法総持の妙法蓮華経これなり。又、本果の釈尊の色心を本因上行の心身に垂下し、上行の一身を滅後総導師の日蓮と垂下す。故に知んぬ日蓮大士の一身は釈尊上行なり。観心本尊抄に己心の釈尊と云々の己心は日蓮也。己心の本尊は即身成佛なり。故に日蓮大士は末世の一切衆生の為の主師父母也。即ち日蓮を以て本果の佛界と為し。日本国の逆謗の悪人性得の九法界を以て弟子王子と為し、父子天性を結んで父子和合邪正一如十界互具界如三千の秘妙方便を顕すこと前代未聞也。

◎宗祖大士は本極法身の相好にて在します

本極の法身とは本門三世益物の教主・久成釈尊の御事也―略―此の法身に諸の相好を具すかくの如き本地法身の相

好説法を上行に附し。上行の相好説法を末法の愚人に移すなり。その相好とは日蓮大士是也説法とは以要言之の妙法蓮華経也――可秘――

◎宗祖大士は顕本応身滅後流通の教主色相荘厳の佛の正体　私新抄

今経本門の意は応身報身の顕本之を明せり。常住の報応二身是れ当宗の本尊とすべし。就中顕本の応身は滅後流通の教主・色相荘厳の佛の正体なり色相荘厳の佛円宗の本尊なるべし。

◎宗祖大士は因果不二の本因妙名字即佛　隆全七・四〇五

本果の釈尊を以て裏となし、本因妙の釈尊を以て上行と顕し面となして因果不二の本因妙の佛を以て念佛の佛と言うべきなり。此の本因妙の教弥実位弥下の上行の全体日蓮大士なれば、六即六佛の名字即佛の日蓮大士を念佛の佛と言うべき是也。是れ観心本尊の念佛也。

◎宗祖大士は上行菩薩の人間像　隆全一・一二五

口伝に曰く、地涌上行等は一品二半脱益の辺は本因妙の位は初住・乃至今日霊山の辺は等覚なり。然るに滅後の唱導に定め玉う時は十法界の身を以て諸の国土に遊ぶ時末法に遊行する辺は人界を以て面となし、人界互具の十法界身と顕るべし。上行共は等覚所具の名字に顕れ出でて神力嘱累の要附を受取る也。此の上行・十法界身を以て人界に顕れ出で已れは日蓮大士也。仍て日蓮は上行体内の人界也。上行即釈尊体具の本因妙なり。本因妙即名字即也。名字即は凡地なり。その所居の国土は釈尊上行は即ち久遠本時の娑婆なり。娑婆の内に久遠の日本国これあり。此に依て日蓮大士の師弟は本涅槃妙滅後末法に住して血脈抄の如く法妙なる故に人貴し人貴が故に処貴しと云て迹門諸宗の執権の謗心を払うて久遠本因妙所住の娑婆を顕す歟。之を思え。

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〝文類とメモ〟

日本国即久遠本因妙の日本国なりと住本顕本して常に此の本に住して恒に本を顕せば此の日本国は即久遠本因妙の本国土たる本時の娑婆の中の日本国なり。その時は今の日蓮即久遠本国土本因名字所住の日本国の日蓮也。今昔時異りと雖も日蓮は一人なり。常住此本の本は日本国也、此の如く意得れば久遠本因妙本土娑婆日本国の主師親日蓮即今日本門流通末法娑婆日本国の主師父母日蓮也。開目抄の初に主師親は釈尊上行也下の巻の末に云く日蓮は日本国の諸人の主師父母也と云々　仍て

釈尊上行日蓮は三世常恒に此の久遠の娑婆日本国に久住して主師親なり但し釈尊は在世・本涅槃妙滅後流通は上行日蓮なり　秘之　秘之。

◎父上行とは日蓮大士これなり　宗要

此の九法界総持の上行王子本国土妙久遠の娑婆に縦横無礙に周遍すと雖も殊に滅後の無佛世に遍法界して自性体内の九法界を益す此の時は上行は父・九法界は王子也。その時の父上行とは日蓮大士これ也。此の師弟旦那南無妙法蓮華経と唱え奉りて自受法楽して即身成佛して本覚の自受用身となり所住の処は即寂光土也。経に曰く是人於佛道決定無有疑之を思うべし　―中略―　本門八品上行要付の自受用身は大悲に下り。教弥実位弥下して尊形の自体を顕して（宗祖大士）事寂光（日本国）に住し凡夫を以て所生の王子となして父子天性を結び三五下種及び末法下種の父と為つて聞法為種の説法これあり。上行要附信行易修の自受用身（宗祖ノ弟子旦那）は前代未聞、初めて観心本尊抄・開目抄・当体義抄・血脈抄に分明に定判これあり　（　）は筆者私

◎釈尊上行・日蓮を根本の智父と為す　隆全一ノ一三八

故に知んぬ。此の娑婆三界の一切衆生は本門の体玄義実相法身を以て根本境母と為し。釈尊上行日蓮を以て根本の

智父となし。父母境智一如の南無妙法蓮経華なり。故に此の妙法蓮華経は総なり能具也。釈尊上行日蓮は別なり。所具なり。

◎釈尊は祖・宗祖は上行分証佛界の父・我等は子　隆全八・一〇〇

幸いに日本国は日本の二字の顕す処。本国土妙の本土也。その所居の我等は九法界なり。日蓮大士は上行分証佛界の父なり。我等は所生の子なり。我等一念の信心を以て事円三千の南無妙法蓮華経を唱うれば釈尊は我が祖なり。上行は父なり。我等は子なり。

◎上行日蓮大士は久遠本覚一体三宝の僧宝なり　隆全九・五四六

本門八品上行要附の一体の三宝は一向に末法を益するなり。佛宝とは本果妙の釈尊なり。僧宝とは本因妙上行なり日蓮大士なり。法宝とは本因本果本国土の十界依正三千の本地の妙法蓮華経なり。

◎宗祖大士御一人して世界の謗法罪を転じたもう　十三問答抄（宗全四六七）

又上行より日蓮聖人出生し、日蓮より日本国の一切衆生出生す。是の故に日蓮上人は日本国上下万人の主師親なり。開目抄に曰く日蓮は日本国の諸人の主師父母なりと判じ玉えり。当時の謗罪定業をば日蓮聖人一人して之を転ずべし此事次を以て引き奉る口外すべからず。

◎上行菩薩日蓮大士の神変　隆全三八二

今経迹本二門の自行因果・化他の能所も皆悉く釈尊の神変なり。其の中に最上の神変は本門上行要附なり。仍て本門八品上行要附已来滅後正像末の利生殊に本門流通の日本国中、依正の諸法三業所作捨邪帰正呵責謗者歩々念々声々の南無妙法蓮華経は上行菩薩日蓮大士の神変なり。

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〝文類とメモ〟

◎宗祖大士は上行菩薩の入重玄門倒修凡事の尊形　隆全八・二七〇

本果妙釈尊の入重玄門倒修凡事をば広く寿量品の三世益物に之を明し。本因妙上行の入重玄門の凡事をば分別品の末半品以下五品半に広く之を宣ぶ。謂る「於我滅度後―決定無有疑」と云へり。此れ等即ち滅後の悪世悪人に対して起す処の上行菩薩の入重玄門倒修凡事なり。仍て入重玄門とは此土、他方の佛滅後の流通也。倒と云は逆縁也。修とは信行也。凡事とは日蓮大士の尊形也。

◎日蓮大士の説法は釈尊意輪の説法なり　全八・四五七

本佛釈尊の身輪は本涅槃妙を唱えて法界周遍の「滅是法性滅」の滅に入り。釈尊の意輪を上行菩薩となす。故に滅後上行の利生は釈尊の意輪説法也。釈尊の意輪なる故に自性所生の眷属と言い、法身支分の眷属と言う也。若し爾らば此の滅後の意輪説法とは其の相如何？　答　以ての外の大事なり。秘蔵なり。所詮日蓮大士の折伏説法即意輪説法なり。仍て釈尊の意輪説法は上行・上行の意輪説法は日蓮・日蓮の意輪説法は観心本尊抄・開目抄等の諸御抄なり

◎宗祖大士は顕密不二生佛一如即身成佛の本覚の佛　宗要一・三二

下種の教主とは果頭開顕して過去遠々無始久遠の処に居する久遠常住の報身三世益物して化導の始終種熟脱の三五の遠化これある慈父大王本果の釈尊・本因上行。十界具足の報佛也。此の報佛は非顕非密不二也。又生に非ず佛に非ず生佛一如の即身成佛の本覚の佛也。所居の本国土は界内に非ず界外に非ず。娑婆に非ず寂光に非ず。娑婆即寂光の本覚の土也。

◎宗祖大士は未来人一の本因妙の釈尊なり　隆全一〇・五二一

日道仰に云く。此の二重の佛名（神力品）は、初の南無釈迦牟尼佛は本果妙の釈迦也。後の南無釈迦牟尼佛は本因

妙の釈迦也。是れ即ち本門の意は教弥実位下して従果向因し玉う故に釈尊も上行要附の会場には本果妙より本因妙に出でて末代易行の本尊となる也故に二重の称名これ有り。仍て此の南無帰命の義は滅後末法に至つて日本国中の信謗の一切衆生。広布の時南無日蓮大菩薩を唱え奉りて弟子信者となるべき人一を表するなり。

◎宗祖大士は三世本有の利生・下種観心の教主なり　隆全八・三〇八

末法は本門観心の時なり。若し爾らば今日の本涅槃妙。久遠の本涅槃妙今昔時異にしてその実体は是れ同じ。故に久遠の本説法妙・本眷属妙の時上行を召して以要言之の本涅槃妙滅後末法の国は日本国・観心の唱導は日蓮大士也又今日在世顕本の時・本説法妙本眷属妙の時以要言之して本涅槃滅後末法の時に本門を弘む。その国は日本国・教主は日蓮大士なり。此れも今昔時異りと雖も其の土其の人は全く同じき也。其の所行々儀は三世本有の不軽折伏行なり。今昔之れ同じき也。所弘の法も今昔同じく本因果国界如三千の事行の妙法三大秘法の本門の本尊なり。此の旨を顕さんが為に三世益物を説て開近顕遠又諸佛道同するなり。道同すれば今昔同じく釈尊上行なり。上行在世に出れば釈尊也。釈尊滅後に出れば上行也。末法に人界に顕るれば日蓮大士也。是れ即ち三世本有の利生也。此の意を以て寿量品の三世益物を講ずべき也。此の一段之を秘すべし。

◎宗祖大士は久遠本因妙上行　隆全一〇・四三四

口伝に云。過去久遠下種本因妙名字信位と今日本門八品の本因妙上行要附の末法下種の名字即とは全く同じき也。故に久遠本因妙上行は即日蓮大士也。日蓮大士自性所生の日本国の衆生は十界久遠の上行也。故に日本因は本時の娑婆本国土也。此れ本門戒坦なり。此の正理を失心して之を知らず之に背くを謗者と名け失心せずして之を信ずるを信者と名く。故に日本国の一切衆生の為には日蓮大士は諸御抄開目抄の如く主師父母なり。故に知んぬ日本国の依正万

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格　〃文類とメモ〃

法は本果釈尊本因妙上行日蓮の弟子旦那なる故に本門当体蓮華の本国土なり。

◎宗祖大士は本因妙名字信心信智の尊形本覚の自受用身也　宗要一ノ五八

本因本果本国土依正三千円備の妙法蓮華経を以て総体の自受用身とす――本果の自受用身とは久成の釈尊なり。本因の自受用身とは本化上行等也。――本門八品上行要附の時は本果の自受用身を以て裏となし、本因の自受用身を以て面となし尊形の自受用身を以て易修易行の自受用身となして上行要附を成ずる也。此の要法とは本因本果本国土依正三千の尊形に顕れたる自受用身を要の妙法蓮華経と言う也。玄一曰此の妙法蓮華経は本地甚深の奥蔵也。此の妙法華経は本果の自受用身より本因の自受用身に垂下し。猶等覚より初住・初住より観行相似と位弥下して猶は名字信心信智の自受用を以て本因妙の自受用身の正体となす。（宗祖大士）此の信智の自受用身の御口より出す処の言語の自受用身を末世下機に示して妙法蓮華経と名くる也。かくの如き教弥実位弥下の本因妙信智の自受用身は爾前迹門に分絶えたり。故に永異諸経と言う。これ三国未伝・正像未弘・玄文止有余不了本覚の自受用身也。

◎宗祖大士は上行示現滅後末法一切衆生三徳有縁尊形・本因妙名字信行自受用身なり　宗要一・五八

尋ねて云く。今云う処の如き本因本果の三千尊形の自受用身の証拠は何れにこれありや、答。諸御抄特に観心本尊抄及び開目抄の上巻に分明なり。謂く―略―此の御釈（本尊抄四五字）開目抄と同じく。本因本果本国土事三千即釈尊上行尊形と顕れ。而も本果本因と次第して本果自受用身より本因妙名字信行の尊形三千の自受用身に下り末世の衆生を益する也。仍て本果釈尊尊形総体自受用身は流通附属本因妙上行尊形総体自受用身なり。此の上行示現の滅後末法一切衆生三徳有縁の尊形総体の自受用身これあるべし。その末法唱導本因妙名字信行の尊形自受用身何れにこれありや。如何。答当流唯授一人の口伝なり。之を聞くべし云々。

◎宗祖大士の師弟は本果妙釈尊の下契物機の人界尊形の自受用身　宗要一・一一九

三千遍法界の自受用身を本因本果の釈尊上行の尊形自受用身と顕し界内外の諸浄土の理土より本時娑婆同居の本国土妙の事土に還つて、土について本覚を顕し佛に付て本覚を顕す。此の本覚の大悲門は教弥実位弥下の体也仍て本門一品二半の脱より本門八品の下種の辺を以て本懐となす故に、本果妙の自受用身釈尊より随縁々起して本因妙の自受用身上行と垂下し。総じては九法界遍照の自受用身の尊形を示し、別しては人界の自受用身の尊形を現じて下契物機する也。此の人界尊形の自受用身とは日蓮大士の師弟也。此の時の自受用自受法楽の智慧は三種般若の中の文字般若也。此の文字般若とは、此ノ妙法蓮華経ハ本地深ノ奥蔵也と云之也。此の五字は自受用身の根本種子にて是れより本因本果釈尊々形。十法界我等が尊形の自受用身を随縁々起する也。

◎宗祖大士は教弥実位弥下本因妙字信智凡夫即極人界本覚の自受用身　宗要一・六七

教弥実位弥下して妙覚の本果妙より本因妙に変身垂下して上行となり。猶等覚より地・向・行・住と下りて断無明の衆生を助け、又初住より相似観行に下りて密に正像を益し、猶名字信位に垂下して信智の即身成佛を以て本覚顕照の人界の自受用身と顕れ顕に末法の悪人を助くるを本覚の上の本覚の自受用身と名くる也。此の教弥実位弥下本因妙名字信智の凡夫即極人界本覚の自受用身とは誰人なるや是れ口伝なり　云々

此の自受用身は広略を去て要を以て自受法楽する也。云々

◎宗祖大士は末法出現正直正顕の上行の尊形　隆全九・二

第二番已下、本果妙釈尊。本因妙本時妙応の眷属。師弟共に従本垂迹して神通を以て迹を覆て而も迹の事儀を用い住本用迹して本涅槃妙を唱え本時妙応の眷属上行正像には権迹に住して形を九道に垂れ、而も本法を用いて衆生を利

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〃文類とメモ〃

日隆聖人によりて闡明せられたる宗祖大士の霊格〃文類とメモ〃

益し末法には正直正顕の上行の尊形（宗祖大士）を以て之を益すること世々番々廃退なし。

◎宗祖大士は四依総在の初依の菩薩上行菩薩　宗要二・一九

本門八品上行要附の時・久遠本来の下種の唱導に定め玉う本門四依の上行菩薩を末法下種の慈父として附属し玉う。故に末法下種の慈父は本門四依の上行菩薩なり。此の上行菩薩従果向因して本因妙の内を等覚より地向行住乃至相似観行名字と垂下し玉う。名字信行の四依総在の菩薩とは何なる菩薩ぞや。

答。口伝也。之を秘すべし。云々。

◎宗祖大士は上行大悲闡提の菩薩　宗要二・一一三

爰に知んぬ。上行等は釈尊自性所生の御弟子にして上行即釈尊・釈尊即上行にして上行本果にあれば釈尊と名づけ釈尊本因にあれば上行と号す。而も父子師弟本因本果宛然として衆生脱益の時は釈尊の尊形を示し三世の衆生下種の時は上行の尊形を示して人界に日蓮大士と顕る上行独り大悲闡提の菩薩也。

◎宗祖大士は佛果内証無明法性一体の体内性悪の無明より従果向因してもとの因位に居する上行の普現色心応用の尊形（文略）　二・一四〇

◎宗祖大士師弟は従果向因凡聖一如本覚の自受用身　宗要二・一四〇

我等己心本尊の自受用身は教弥実位弥下して本果より本因に下り同体上行の身を示し等・地・向・住と垂下して上機をも洩らさず之を益し。猶名字信位の下々に垂下して名字信智の因位の自受用身と顕れ・顕はに末世下々の衆生を益する也。此の所化の下々の衆生も信行の自受用身元より能化も信智の自受用身なり。此れを凡聖一如本覚の自受用身と云う也